

はじめに

日野郡は鳥取県の南西部に位置し、日南町、日野町、江府町の3町から成っており、標高約200～600m付近で農林業が営まれる中山間地帯である。大正時代まで「たたら製鉄」が存在し、製鉄業に携わる人々によって、農業や林業が支えられてきた地域でもある。

大山山麓に広がる丘陵地と谷あいの農地では、日当たりのよさと豊富な水を利用して、古くから良質米が栽培されており、消費者の評価も高い。とりわけ、旧郡域の「日野川源流米コンテスト」や「日野特別栽培米研究会」、江府町における「奥大山プレミアム特別栽培米研究会」、日野町や日南町での海藻肥料を使った米づくりをはじめ、農家が創意工夫を凝らした取組が展開されている。

平成26年産の米価下落を機に、担い手への農地集積が加速している中、経営基盤の強化を図るため、集落営農の組織化や個人経営の法人化が進んでいる。

高齢化に伴って、白ねぎ、ブロッコリー、ピーマンなどの園芸品目は徐々に減少しているが、がんばる地域プラン事業による取組などによって、トマトの栽培面積は増加に転じた。

新規就農者は、日南町において平成21年度に町農林業公社（現：一般財団法人エナジーにちなん）による研修体制が先行して整備されたのをきっかけにIターン者が参入した。江府町、日野町でも地域おこし協力隊を受け入れており、IJUターンの動きが従前よりもみられるようになった。

森林に目を向けると林野率が88%で、管内の林野面積は県下の20%を占めている。スギ、ヒノキは7～12齢級に集中しており、間伐などの保育活動を推進し、資源を有効に活用していくことが課題である。林業従事者は高齢化などの問題はあがるが、前述の日南町における研修体制や「緑の雇用」を活用した新規就業を進められている。平成20年に創業を始めた(株)オロチでLVL製造が開始されたことにより、郡産木材が高次加工される体制が整い、地元での雇用も創出されている。

森林資源はバイオエネルギーとして注目されており、農業用園芸ハウスでの熱源として鳥取県園芸試験場日南試験地に薪ストーブが試験導入され、トマトの促成栽培に一定の効果が見られた。この薪ストーブは郡内の農林家数戸が導入し、トマト以外にシイタケや軟弱野菜へも活用されている。

鳥獣被害のほとんどはイノシシによるものであり、直近3年の捕獲頭数は大幅に増加したが、被害額は年による差が大きい状況である。また、シカやサルなどが出没するようになってきた。こうした中、日野郡では3町と県が連携して、平成25年度に「日野郡鳥獣被害対策協議会」が発足した。同26年度には鳥獣被害対策実施隊が結成され、鳥獣被害の拡大を食い止めるべく精力的に活動している。本実施隊は地域おこし協力隊などが中心となって組織されており、活動の充実と人材の定着に向けた取組が図られている。

日野郡の農林業を取り巻く情勢は、高齢化や人口減少の波をいち早く受け、厳しい状況であることは変わらないが、地域の特色を活かした農林業が展開されており、中山間地域のモデルとして注目されている。